

平成29年度 平塚農業高等学校 不祥事ゼロプログラム実施状況

○ 項目・目標別実施結果 NO.1

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
定期試験・成績処理における事故防止	本校の成績処理の仕方を周知し、過去の事故を教訓にミスを発生させない。	学事Gからの定期試験の作成点検マニュアルを確認し、複数の目で点検することの大切さを改めて周知した。特に新着任者への周知徹底を図った。
調査書作成に当たっての事故防止	複数のチェックを通してミスを起こさない。	県の情報より「事例から考える一誤った調査書発行を防ぐために」を読みながら担任副担任だけがかかわることではないということ、複数の目で確認することを周知した。多くの職員がかかわり、複数で何度もチェックし調査書作成・発行の事故防止につながった。
個人情報保護	情報のやり取りを軽く考えさせない。 外部への持ち出しをさせない。	県の情報より「事故・不祥事ゼロを目指して」を読みながら、個人情報とは何かを再確認し、管理監督者としてまたは、職員個人として個人情報漏洩を防ぐ手立てを意識させた。
ノロウイルス感染症を防ごう	食品を扱う高校であることを教科外職員にも再認識させる。	資料を参考に生徒だけでなく職員一人一人が予防することの大切さと、かかってしまった時の対処法や、適切な汚物の処理方法を周知した。知らなかったことを知る良い機会となった。
セクハラ・パワハラの防止(1)	職員間の普段の言動のありかたを考える。	総合教育センターから講師を招き「ハラスメントのない学校づくり」をテーマに研修を行った。日頃のコミュニケーションが仕事の質にも作用することを再認識した。
セクハラ・パワハラの防止(2)	自分の言動について振り返る。	県の情報より「セクハラ行為・不適切指導」を利用しながら生徒側の立場に立った感じ方を再認識してもらい、職員との感覚のずれを確認したうえで事故防止に努めるよう注意喚起した。自分は自覚できていなくて、知らず知らずのうちに相手を傷つけているかもしれないことを客観的に知ることができた。
農薬・化学薬品の安全管理体制の強化	管理のシステムの確認と、マンネリ化を防ぐ。	実際に本校食品科学科で使用している農薬・化学薬品の管理帳を提示し、農薬や化学薬品が校内で正しく取り扱われていることを再確認した。管理がマンネリ化しないよう意識を高く持つことを再確認した。

○ 項目・目標別実施結果 NO.2

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
体罰・不適切指導の防止	体罰について職員の認識を高め、生徒の人権を理解する。	県の情報より「体罰・不適切指導の防止」を読みながら、体罰の概念が生徒と職員の間でずれが生じていないか再確認した。自分では、そんなつもりがなかったという軽い判断をしないよう再確認できた。
酒酔い・酒気帯び運転防止	飲酒運転の処分の重さを知り、道路交通法厳罰化を意識させる。	翌日になれば酒気帯びとならないと勘違いしている事例を提示し酒気帯び運転による事故は免れても、発覚後の免職は免れないことを再確認した。本人だけでなく、周りが飲酒運転をさせない雰囲気を持つことを確認できた。
入学者選抜における事故防止	職員一人一人が危機意識をもって業務にあたる。	過去の事案から入学者選抜における事故防止のポイントを確認し防止の手立てとした。新しい採点方法にも落ち着いて取り組めた。
公務外非行防止	臨任や非常勤の職員を含めて公務員として責任のある行動を徹底させる。	社会人として、公務員として、社会の目を意識し24時間、365日、プライベートの時間も、税金から給料を支払われている自覚をもつことを再確認した。臨任や非常勤の職員にも意識改革を図ることができた。

○ 平成29年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

職員からの毎月の取組及び管理職からの必要なタイミングでの研修、行政課からの啓発・点検資料を活用し、効果的なプログラムを実践することができた。来年度も効果的なプログラムを計画していく所存であります。